



創美流七夕いけばな展

4年ぶり一般公開

創美流華道「第68回涼風七夕いけばな展」が7月16・17日、東京都東久留米市・創美流華道会館で開催された。主宰創美流華道家元、主催創美華道会、後援東久留米市・花卉園芸新聞社、協賛創美流華道後援会・茶道脩静庵。



渡邊家元の作品



花卉園芸新聞社賞
誇さんの作品



鴻雲齋宗興宗匠記念賞
山内瀬舟氏の作品

創美流ではコロナ禍の来場者は関係者のみとしてきたが、4年ぶりに一般にも公開。会館入り口には創美流華道家元十五世渡邊華靖氏が育てた玉蜀黍を迎え花としていけば、大床には先代家元が植えた大木となつた楓を水盤に見事にい

け、株元にカシワバアジサイ、枝先の緑陰にヒオオギを添え「去し岳父新宅植へし楓の木早や廿歳と切りて捧げむ」の歌を添える。渡邊華璋副家元は、赤い実を付けたヒペリカムに赤バラの生命感と、メタリックな着色エノコロ草の対比が新生花の世界観を広げる出瓶。

多数の出瓶作品の中から山内瀬舟氏(多摩中央)は、鬼灯とその葉も生かし先祖を迎える思いと夏越しの被えの茅の輪くぐりが重なる作品で鴻雲齋宗興宗匠記念賞を、市川碧水氏(神奈川県)が葉蘭の五管寄せで脩静庵華鴻宗匠記念賞を、田中翠雲氏(青森県)は水盤に河骨と睡蓮、ガマをかけた意欲作で会長奨励賞を受賞。

学生子供席では渡邊文誇さん(玉川学園小学部6年)が器のコンポートにドラセナゴッドセフィアナ、グルクマ、サンダーソニア、葉蘭、ペロニアを基本の花型に忠実に、軽やかに空間を生かしながらそれぞれの植物の出生を上手に表現した作品で花卉園芸新聞社賞を受賞した。

花展作品は創美流華道のホームページで動画で紹介していく。